

◆研究テーマ・内容

認知の健康長寿を実現する早稲田研究の社会実装

「人間とはなにか」の科学が人総研の原点であり、well-beingの実現こそが人総研が目指すところです。本研究プロジェクトでは、中でも認知症対策に着目し、学際的研究チームによる「認知の健康長寿のリビングタウン」の実現をテーマとしています。所沢市と人間科学学術院との「協働まちづくり」包括的連携協定に基づき、所沢市をメインフィールドとしてwell-beingを実現するモデルタウンと位置づけました。社会実装の早期実現を目指し、以下のような取り組みを進めています。

- (1) 「市民対象の認知の健康調査」の推進
- (2) 開発中の「認知のデジタル評価」（認知テスト）の社会実装
- (3) 人総研による「認知の健康長寿のための市民教育講座」（以下、市民講座）の開催
- (4) 認知の健康長寿に資する要因の探索と検証

認知の健康長寿にとっては運動、睡眠、食、そして「脳活」のような脳を鍛えること、つまり日常生活が重要なことは言うまでもありません。しかしそれら個別の要因について、どのような内容をどの程度行うのが良いのかは曖昧なままです。本研究で行う調査では、それらと認知機能との関係を調べることで適切な内容とその程度を探っていきます。また市民講座を通じて市民のみなさんとの対話を重ね、認知の健康長寿のための市民のニーズと解決方法を探っていきます。

また早稲田大学は、ある腸内環境が実験動物において認知機能を向上させることを発見しています。腸内細菌叢の解析も調査において実施します。大学の研究成果をもとにして地元のみなさんに協力いただきながら、実証研究と社会貢献を両立させたいと願っています。

◆担当教員：掛山 正心 教授

<主な研究成果>

1. Ikuta K, Joho D, Kakeyama M and Matsumoto M. Bifidobacterium animalis subsp. lactis and arginine mixture intake improves cognitive flexibility in mice. *Frontiers in Nutrition* 10: 1164809, 2023. (早稲田大学ニュース「新たな認知症予防の可能性を発見～ビフィズス菌とアルギニンの併用投与がマウスの認知的柔軟性を向上させることを発見」:
<https://www.waseda.jp/top/news/92184>)
2. Suzuki T, Joho D, Okuno H, Kakeyama M. Heterogeneous Medial Prefrontal Cortex Ensembles Exhibit Reproducible Internal Temporal Dynamics during Choice Behavior. *Journal of Neuroscience* 46:e0358262026. (早稲田大学ニュース「意思決定の進行を映し出す内側前頭前皮質の神経活動」:
<https://www.waseda.jp/inst/research/news/85601>)